

板絵着色榛名山社頭図



〔指定年月日〕昭和五七年一月一日  
〔種別〕有形民俗文化財（信仰）  
〔名称〕板絵着色榛名山社頭図  
〔点数〕一面  
〔所有者等〕井草八幡宮  
〔所在地等〕善福寺一―三三―一

## 板絵着色榛名山社頭図

縦一二一cm、横一六〇cm、杉板横六枚はぎの大きな板絵で、文政一二年（一八二九）に井草地域の榛名構中が奉納したものである。榛名講は古くから雷や嵐除けの神として農民たちの信仰を集めていた榛名神社の講社である。

板絵の下部には七三名の奉納者名が列記され、その地域は区内の上下井草、上荻窪、松庵、大宮前、阿佐ヶ谷のほか、区外の竹下新田（練馬区）、吉祥寺（武蔵野市）、田無（西東京市）などにも及んでおり、井草八幡宮を中心とした榛名講は広い地域の人々の集りであったことがわかる。

絵師の「溪泉」については不明である。ただ、人物描写には葛飾北斎の影響がうかがわれ、かつ北斎の弟子には「溪」の字ではじまる名が多いので、あるいは北斎系の絵師かとも考えられる。

榛名神社の社殿・社頭および参詣の人々の姿を力強いタッチで描いたこの板絵は、区内でも古い年代に属し、当時の神社信仰と神社参詣の慣習・風俗を今日に伝える恰好の資料である。

### 【文化財所在地】

